



ウォーキングコース

コース1 史跡標柱コース (3km 1時間30分コース)

神原ふれあいセンター→①宮大路動物園の跡地→②宇部市役所旧庁舎跡→③旧中津瀬神社井戸跡→④宇部大空襲の跡を残す焼夷弾の芯→⑤新川渡し場跡→⑥新川(真綿川)が疎通した頃の河口付近→⑦恵比寿神社の跡→⑧緑が浜(沖の山)の波打ち際→⑨蒸気問屋の跡→神原ふれあいセンター

コース2 彫刻コース (2km 1時間コース)

神原ふれあいセンター→①王と王妃→②アルウィン・ニコライの囀→③王と王妃→④Dreamer→⑤宇宙→⑥地球の明日が見えますか?→⑦母のひざ→⑧産業折念像→⑨懸ける→⑩SAMPLE→⑪Heartful Communication→⑫風→⑬そりのあるかたち→⑭鳥とあそぼう→神原ふれあいセンター

コース3 校区外周ロングコース (6km 2時間コース)

神原ふれあいセンター→①中央コート→②神原小学校校門前→③琴芝駅ホーム前→④宇部市役所→⑤宇部社会保険事務所→⑥宇部市地方卸売市場(魚市場)→⑦恵比寿神社→神原ふれあいセンター

神原の由来

今から200年前ころまでの神原地区は、人の住んでいない湿地帯と、海岸の砂原の沖の山(幕末に植林がされて緑が浜と命名)であった。昔の真綿川(間古川)から「新しい川」を掘って、新川と呼ぶようになって、人が住むようになった。その新川のそばに守護神として、中津瀬神社(旧山口銀行宇部支店付近)が建立された。「神原」という名称が使われたのは、明治37年(1904)真綿川の東岸(現在の県総合庁舎南側)に、渡辺祐策翁が本抗を開き、常藤炭鉱を合わせて当時の小字名の「上原田」をとって「神原炭鉱」としたのが初めてである。これ以降、神原小学校、神原公園などの名称が使われるようになった。

